

Society for Information Display

日本電気硝子株式会社
若木 純造

1996 International Symposium, Seminar & Exhibition

Wakaki Junzo

Nippon Electric Glass Co., Ltd.

1996年 5月12日から17日の6日間に渡り、SID(Society for Information Display)の年会である、第27回国際シンポジウム”SID '96”が米国カリフォルニア州サンディエゴ市のコンベンションセンターで開催された。12日に各4時間の基礎コース4件の講義、13日と17日にそれぞれ10件と6件の講演、14日から16日の3日間に論文発表、15日の午後にポスターセッションが行なわれた。また14日から16日には、200社以上の企業による展示会も盛況に開催された。本シンポジウムは、CRT及びFlat Panel Displayに関するもので、ディスプレイメーカーだけでなく、関連の材料・設備メーカーも大挙して参加している。最近の傾向として、韓国からの参加者が特に多いようにみうけられた。

論文は以下に示す分野別に発表された。

1. Active-Matrix Liquid-Crystal Displays
2. Applications
3. Applied Vision/Human Factors
4. CRT Technologys
5. Display Manufacturing
6. Display Measurement
7. Display Systems
8. Emissive Displays
9. Hardcopy/Imaging Systems
10. Large-Area Displays
11. Liquid-Crystal Technology

口頭発表は174件で、内56件は日本からの発表であった。またポスターセッションは71件で、内17件が日本からであった。

本シンポジウムでは、LCDに関する論文が主流であったが、事前にメーカー各社が家庭用大型PDPテレビの量産計画を公表していたこともありプラズマディスプレイが大いに注目を浴びていた。また、SIDの会長職が、2年間の任期満了に伴い、XEROX Corp. のA. I. Lakatos 博士からFED Corp. のW. E. Howard氏にバトンタッチされた。ガラスメーカーとしてはCORNING Corp. が口頭発表2件及びポスターセッション2件の発表を行なった。口頭発表は、高歪点を特長とするPDP用ガラス基板、並びに環境対策を目的としたPb0フリーのカラーCRT封着用結晶性ガラスフリットの開発に関するものであり、ポスターは、2件ともカラー液晶用ガラス基板の機械的強度に関するものであった。また展示したガラスメーカーは、HOYA Corp., SCHOTT Corp., TECHNGLAS Inc. およびNEG America Inc. の4社であった。本年会は、年々参加者が増え、昨年は約4000人、今年は西海岸ということもあり約5000人が参加したとのことである。但し、ホテルが超満員のため予約が取れず途中で別のホテルに移動するという苦労もありました。